

認定監理技師制度への期待と要望

論説

—その2—

■ 口の巧い輩に騙されるな

「 $a = b$ と仮定すると $a \times a = a \times b$ だよな。両辺から b^2 乗を引くと $a \times a - b \times b = a \times b - b \times b$ でしょ、両辺を因数分解すると $(a + b)(a - b) = b(a - b)$ だから両辺を同じもので割れば $a + b = b$ じゃない。 $a = b$ だから $2 = 1$ になるね」

2 と 1 が等しいわけがありません。また、中学生でも等式の両辺を 0 で割ってはいけないうことを知っています。ペテン師の口上には必ずどこかにこのようなインチキが潜んでいるものです。

会員の皆様は見破れましたか。これが数式だから、まだインチキを見抜けますが、すべてが言語だったら……。

■ 鶏は毎日同じ数しか卵を産まない

卵の安売りをすると客が押し寄せるのだそうです。スーパーにとって卵は最大の集客商品なのです。

平日に売れる卵の数を 10 とすると、週末には 30、特売日には 100 も売れるといいます。卵 1 パック 88 円！とうたったチラシを配ると開店前から行列ができるそうです。

ここで問題です。どうして特売日だけ 10 倍も卵が並ぶのでしょうか？ しかも、賞味期限はどれも同じで新鮮なものが……。

「明日は特売日だから頑張っているもの 10 倍卵を産もう」なんて考える鶏がいたら素晴らしいですね。

カラクリは簡単です。日付をごまかしているだけです。卵の賞味期限は産卵日からではなく、パックした日から 14 日後なのです。ちょっとした注意で見えてくるものが沢山あります。騙すヒトにも騙される人間にもなりたくないものです。

■ 真理は意外なところに

社団法人日本 P T A 全国協議会という団体をご存知でしょうか？ ホームページを覗いてみると、「小学校や中学校における P T A 活動を通して、わが国の社会教育、家庭教育と学校教育との連携を深め、青少年の健全育成と福祉の増進をはかり、社会の発展に寄与することを目的とした社会教育関係団体」だそうです。

どのような団体かピンとこない方でも、「子どもとメディアに関する意識調査」をしている団体だと聞かされればお分かりいただけると思います。それでも分からない人も、その中に「保護者が子どもに見せたくないテレビ番組」という調査項目があると知れば、アー！と納得することでしょう。

3 月に発表された平成 20 年度のこの調査は、小学 5 年生と中学 2 年生各 2,400 人とその保護者各 2,400 人を対象に実施され、回収率は子どもが 81.1%、保護者が 75.2% だったそうです。

お待ちかねの「保護者が子どもに見せたくないテレビ番組」ですが、今年も第 1 位は「ロンドンハーツ」(TV 朝日) でした。

これは 6 年連続のトップだそうです。第 2 位は「クレヨンしんちゃん」(TV 朝日)、第 3 位が「志村けんのバカ殿様」(フジ TV) でした。

毎年この調査結果が発表されるとマスコミはこぞって「俗悪番組」だと叩きます。それでは、何故、「俗悪番組」が何年も生き残っているのでしょうか？

答えは明白です。視聴率が高いからです。

では、誰が見ているのか？ それを解く鍵は同じ報告書の 42 ページにあります。そこには「子どもが好きな番組」が 51 位まで掲げられていて、その 30 位に「クレヨンしんちゃん」が入っているものの、俗悪番組 1 位、3 位とされた両番組は見当たりません。

賢明な皆様は既にお気づきですね。見ているのは大人であって、自分たちが見ているからこそ見せたくないのです。本気で見せたくないのであれば大人が見なければ良いだけです。視聴率が下がって番組は直ぐに放送打ち切りになります。

このようなマッチポンプ的なことは世の中に掃いて捨てるほどあります。ほんの少し視点を変えることはとても重要なことです。

■ 何故、執拗に本質を問うのか

前回、今回と二回にわたって本質について論じさせていただきました。筆者がここまで本質論に拘る理由は、「認定総合監理検査技師」講座で修得した両刃の剣を正しく使っていただきたいからです。

「あり方報告書」の基本的考え方を見ると、「知識と実務能力」の醸成とそれらの維持が強調されています。そのこと自体には何らの問題もないのですが、受講生が挙って社会人基礎力を身につけていて、本質を見抜けるばかりでなく、まともな見識を持ち、胆力もあるとは到底思えないからです。リーダーが本質を見誤れば人々は不幸になるからです。

■ 認定総合監理検査技師カリキュラム

「認定総合監理技師制度あり方報告書」が示すところによれば、「認定監理検査技師カリキュラムのねらい」は「臨床検査室の管理者としての基礎知識習得」と記されています。

その内容は、医療人として、遵守すべき事項について再確認し、組織運営に関する諸理論に基づき担当部署の管理過程を評価し、資質向上のための方策を見出し、他職種、他部門、他施設、地域等の協議・連携の方法論について学び、組織的サービスの質評価・改善の方策について学び、組織の目的を達成するために必要となる行動がとれるように組織集団の基本概念や集団の力動的諸機能を学び、チームリーダーとしての役割を自覚し柔軟に行動できる自己能力の拡大を図り、臨床検査技師職として対象となる人々の権利を尊重し、安全を保障しながら、より質の高いサービスを提供するための方法について学ぶ。

さらに、提供したサービスの評価を行うための知識、技術を習得し、国際規格について理解を深め、マネジメントシステム構築方法を学び、臨床検査に関する医療事故の発生抑止と対策立案に関する理論を学び、管理職として部下の指導に必要な倫理基準を習得する、ということです。また、「上級監理臨床検査技師カリキュラムのねらい」は「オリジナル理論を習得した上で、保健医療福祉への応用理論を学ぶ」ということです。

その内容は、経営者あるはその一員として経営管理の視点に立ったマネジメントが展開できる能力を養い、トップマネージャーが備える要件について学び、組織の理念、経営目標を達成するための中心的要素である人材の確保・育成・活用等、人的資源管理に必要な知識・技術・態度について学び、経営戦略に則した情報テクノロジー導入理論を学び、保健医療福祉への導入・活用を分析し、検査過誤の原因分析と再発防止策ができる品質管理手法を習得するとともに検査プロセスのリスク分析を実施し、検査過誤を未然に防ぐための知識手法を習得する、ということです。

なお、この課程ではロールプレイング、グループ討議を中心に進め、発表・質疑応答により実践的な内容となるようです。

報告書で公表されたこの制度のご紹介とあり方においての偏り・物足りなさについて、また、どの程度のレベルにすべきかをも含めた運用、将来展望、受講生たりうる資質の要件、講師の陣容等に関しての要望は次号以降で詳述させていただきます。

【金子健史】

次号に続く……